

令和7年度事業報告

令和7年度の請負などの受注件数は2,061件と前年から46件減少しましたが、最低賃金の上昇に伴う作業単価の上昇によって、契約金額は約1億2,443万8千円で前年比158万6千円(1.3%)の増とほぼ前年並みになりました。

内訳は、公共の契約金額が3,550万4千円(前年比:336万円の増)民間事業所の契約金額が6,199万3千円(前年比:169万3千円の減)一般家庭の契約金額が2,694万1千円(前年比:8万1千円の減)です。

県シルバー人材センター連合会小千谷市事務所が実施する派遣事業については、受注件数が79件と前年比で11件減少しましたが、最低賃金の上昇及び1件当たりの派遣人員の増もあり、契約金額は7,522万1千円で前年比759万9千円(11.2%)の増となりました。

会員数については、年度末で395人と前年比で18人の増となりました。内訳は、入会者が48人、退会者が30人です。退会者が前年から24名も減少したことが会員の増につながっています。入会理由の主なものは、男性が生きがい・社会参加が最も多く、次に時間的余裕となっています。女性は時間的余裕が最も多く、健康維持・増進、経済的理由及び生きがい・社会参加が同数で続いています。退会理由の主なものは、男女ともに加齢のためが最も多く、次に病気(本人)のためが続いています。

会員の平均年齢は全体が74.5歳(前年度74.1歳)で、そのうち男性は74.9歳(前年度74.5歳)、女性は73.8歳(前年度73.3歳)で男性・女性ともに若干前年より高くなりました。また、請負と派遣を合わせた会員の就業率(年度内就業者数÷年度末会員数)は、93.9%(前年度101.3%)となり、前年に比べて7.4%低くなりました。

受託事業について

令和7年度の受託事業は、全体で受注件数は減少したものの契約金額はほぼ前年度並みになりました。

受注件数については、公共が130件で前年から1件の増、民間は609件で前年から32件の増、一般家庭が1,322件で前年から79件の減と全体で46件減少しました。障子・襖・網戸はりの受注の減少がその一因です。この仕事はサイクルがあり、年ごとの変動が大きいため少ない年にあつたようです。また草刈り業務においては、令和7年は梅雨の期間が短かったこともあり一般家庭からの依頼が減少しましたが、人手不足の影響からか民間企業からの受注は前年度を上回りました。その一方で、会員の高齢化と安全就業の観点から受注にお応えできない件数も増えている状況です。

契約金額については、特別養護老人ホームの宿直基準の緩和により令和6年度後半から施設の宿直の仕事が全てなくなったため、その分野の金額が大きく減少しました。しかしながら1月下旬から2月上旬にかけて降り続いた大雪による除雪作業が前年度を上回ったこともあって全体の額は前年度をわずかに上回りましたが、最低賃金の上昇に伴う作業料金への転嫁分を考慮すると、契約金額は今一つ伸びませんでした。

受託事業については、一部派遣業務に切替えた経過もあってここ数年の間件数は緩やかな減少傾向にあります。その分派遣事業が年々増加で推移しているため合計の契約金額は前年を上回っていますが、このまま減少が継続しないよう対策が必要です。

当センターが受注する仕事の区分では、依然として運搬、軽作業(清掃・除草など)、

サービスの作業（家庭生活支援・施設管理など）、農林漁業の作業（剪定・冬囲いなど）の受注が大半を占めています。シルバー事業は景気の動向や自然条件などに影響されやすく、年度ごとに増減はあるものの、市内の企業や一般家庭の皆様並びに公共機関等から高齢者の就業にご理解をいただき、比較的安定した発注をいただいております。今後も近年の受注状況を踏まえ、社会情勢を注視しながら契約金額の減少が続く民間企業並びに受注件数が減少気味の一般家庭からの受注回復に努めていかなければなりません。

会員の拡大について

令和7年度は、前年より入会者数は例年どおりでしたが、退会者数が減少したため、前年度末から18人増の395人となりました。

令和7年度から会員増の全シ協の方針「新たな仲間づくり計画」の中で当センターの目標である前年度末会員数から8人増はクリアしましたが、今後も女性の入会者が増えている現状を維持しつつ、退会者を抑える方策に取り組んで行く必要があります。

安全就業について

令和7年度は、傷害事故7件、賠償責任事故8件の計15件で昨年から10件増加しました。

傷害事故の内容は、屋内作業中の転倒による頭部の受傷や熱中症、屋外作業中の蜂刺され、刈払機による作業中の指の受傷及び雪下ろし中の転落による受傷です。

賠償事故の内容は、運搬時の襖破損、刈払機による作業中の散水ホース、集水桙、車両のガラスの破損、屋内清掃中のガラス及び額縁の破損、除雪機作業中のエアコン室外機ケーブルの破損となっています。

シルバー事業の大切な柱である安全就業において、事故件数の大幅増はもはや非常事態です。今一度初心に戻って作業のやり方を見つめなおす必要があります。

自身の体力及び技量の過信や経験値による慣れなどによる油断など何気ない作業の中にも事故が潜んでいますので、現場状況の把握等、安全就業についてより強く意識を向上させることが大切です。

シルバー派遣事業について

当センターは、県連合小千谷市事務所として平成22年度から派遣事業に取り組んでおり、国は適正就業を進める中、特に請負・委任契約と派遣契約を適正に行うよう強く指導していますが、同時に不足する我が国の労働力を補うため高齢者に着目し、シルバー人材センターに派遣事業の拡大を促しています。そのような中、適正就業並びに事業拡大に努めた結果、受注件数は減少となったものの契約金額は前年度を上回りました。

派遣事業の前年度比較

項 目	令和7年度	令和6年度	増 減
登録会員数	227 人	210 人	17 人
受 注 件 数	79 件	90 件	△ 11 件
就業延人員	14,190 人	13,703 人	487 人
契 約 金 額	75,221千円	67,622千円	7,599千円